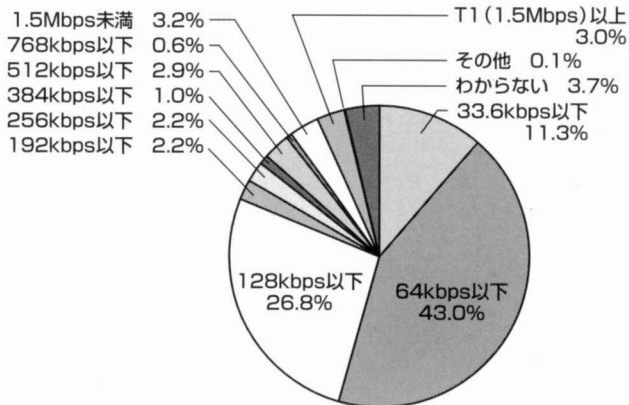


第3章 企業

通信速度、接続形態

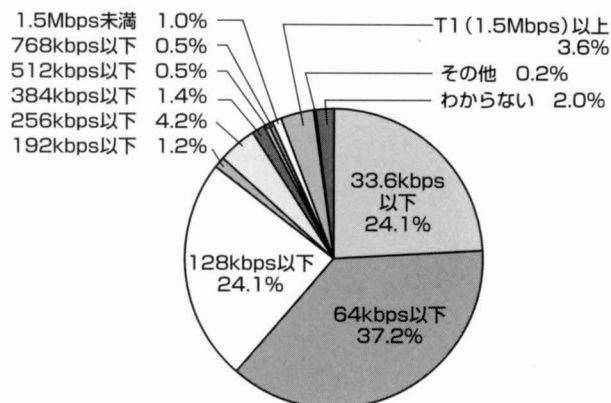
今後も進む高速化、
低料金サービスへの移行

資料1-3-5 主な通信速度 (1999年) N=1,155



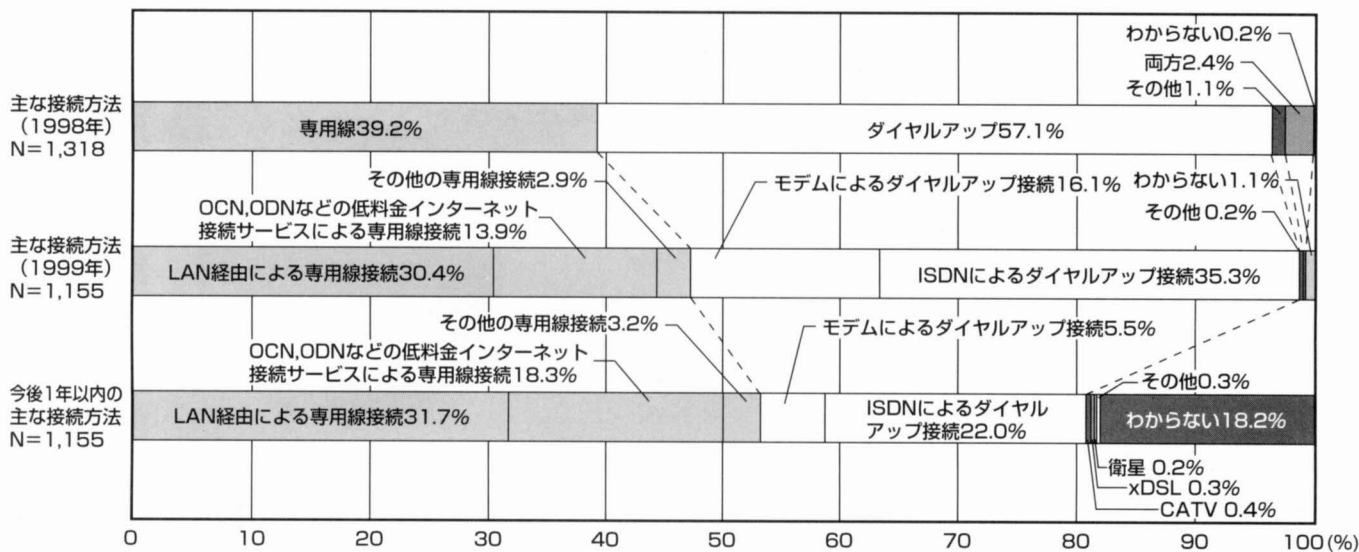
インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-3-6 主な通信速度 (1998年) N=1,318



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

資料1-3-6 主な接続形態 (1998-1999年、今後1年以内)



インターネット白書'99 ©インプレス,
Access Media International&IAJ, 1999

解説

企業における通信速度は「64kbps以下」(43.0%)が最も多い。次いで「128kbps以下」(26.8%)、「33.6kbps」(11.3%)となっており、昨年と比べるとさらに1段階高速化しているといえる。

企業の場合、現実には個人レベルに比べて、通信速度を改善することや接続方法を変更することは、簡単ではなく時間がかかることが多い。最近の経済事情から、全体的に企業の設備投資は消極的であるという点を考慮すれば、この1年でさらに高速化したということは企業がインターネットに対しては積極的に取り組んでいることを反映しているといえる。

通信速度同様、接続方法も大きく変化しているが、今回の調査では昨年とはやや質問形式が異なるため、単純に比較することできない。しかし、今回から今後1年以内の接続方法も同時に聞いており、今後の変化を推測できるようにしている。

「LAN経由の専用線接続」(30.4%)は昨年とさほど変わらないが、「モデムによるダイヤルアップ接続」(16.1%)と「ISDNによるダイヤルアップ接続」(35.3%)の合計は減少し、代わりに「OCN、ODN等の低料金インターネット接続サービス」(13.9%)が伸びている。

ダイヤルアップから専用線接続へのシフトが

現在の主流となりつつあり、今後さらにダイヤルアップが減少する一方、「OCN、ODNなどの低料金インターネット接続サービス」や「LAN経由の専用線接続」の利用が伸びることが予測できる。

また、「衛星」や「xDSL」など新たな接続方法も現れており、今後数年で大きく変わる可能性も高い。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp